

市民の生活情報誌

広

報

# あきた



明けまして  
おめでとうございます!

2009 平成21年 編集発行●秋田市広報課

1月2日号 NO.1688 毎月第1・第3金曜日発行

◆ 新春市長ほっとコラム 節目の年。希望の光を求めて  
◆ 百二十年ひと昔… 広報で振り返る秋田市の出来事



軽快な秋田弁の掛け合いが特徴の祝福芸「秋田万歳」。  
少しでも多くの方が幸せになる年でありますように…





秋田市制120周年記念市民企画イベント市民検討委員会のみなさんと

新春市長ほつとコラム

# 節目の年。

# 希望の光を求めて

秋田市長 佐竹敬久

市民の皆様、あけましておめでと  
うございます。

平成21年丑年を迎え、それぞれに  
ご家族やご親戚、久しぶりに郷里に  
帰ってきた友人などと、あたたかい  
時間をお過ごしのことと思います。

昨年、私たちの生活が経済面を  
中心に国内外の出来事に大きく左右  
された年でした。今年は、願わくば  
厳しいながらも行く先に希望の光を  
見出すことができるよう、気持ちを  
新たに「ふるさと秋田づくり」のた  
め頑張つてまいります。

## 金融危機の後に

昨年9月、米国で150年の歴史を有  
する投資銀行「リーマンブラザーズ」

が破たんして以降、世界経済は一気  
に混乱の渦に巻き込まれ、わが国で  
も企業倒産や雇用解雇、就職内定取  
り消しが相次ぐなど、国民生活は深  
刻な影響を受けています。国民生活  
の安定のためにも、一刻も早い経  
済・生活両面での強力な対策が必要  
であり、今こそ、国・地方ともども  
国家の危機的状況という認識に立つ  
た政治の強力なリーダーシップを必  
要としています。

今回の危機は、一方で、米国を中  
心に拡大してきた弱肉強食の競争至  
上主義、行き過ぎた金融資本主義の  
終焉であり、格差の拡大を招いた市  
場原理一辺倒の極端な構造改革路線  
と決別する転換点とも捉えられてい  
ます。私も、近年のわが国について  
は、何か大切なものが置き去りにさ



笑顔で毎日を過ごせるように(草生津川の桜並木)

れたまま、向かう方向を見失っていたように感じています。何もかも米国にならう必要はなく、日本には固有の美点がたくさんあります。人の和を重んじ、弱いものに手を差し伸べ、そして、四季の微妙な移ろいにも美を見出す繊細な心などは、世界に誇り得る民族の特質ではないでしょうか。

今回の状況を契機として、地方の中小企業や家計、勤労者などで、あまり光が当たらなかった分野に光を当てる方向に、社会経済全体が揺り戻され、美しい自然の中で人々が支え、助け合い、笑顔で日々を送れる、本当の意味での豊かな日本へ向かっていきたいと思えます。

## 市制120周年の節目を 明日の活力に

今年、1889(明治22)年の秋田市制施行から、120周年の記念すべき節目の年にあたります。

市では、第11次秋田市総合計画で重点政策として取り組んでいる「絆」をメインテーマに、心に残るさまざまなイベントを開催する予定です。できるだけ多くの市民にご参加いただき、個々のつながりや地域の絆を深め、一人ひとりの精神的な豊かさや市全体の活力に結びつけたいと考えています。

おもな構成は、①7月12日、市の記念日に開催する120周年記念式典および記念行事、②次代を担う若者たちが企画・運営する市民企画イベント、③ドイツ・パッサウ市との姉妹都市提携25周年に合わせた公式訪問団や市民交流団の編成、そして④市民のお祝いの気運をより高めるための関連事業の4つとなります。

関連事業としては、5月の西部市民サービスセンターのオープンングセレモニー、10月の秋田県種苗交換会、さらには市民のスポーツイベントや地域で行われる祭りなど、年間を通じた事業展開を予定しています。こうした一連の記念行事とおして、多くの市民が触れあい、ともに120周

年を祝うことにより、本市の歴史に新たな1ページを刻みたいと考えています。

## 都市内地域分権が 西部から始動

120周年という記念すべき年に、秋田市がめざしてきた都市内地域分権が、いよいよ本格的に始動します。

秋田市は、平成17年の市町合併以降、約2倍の面積に拡大した市域を念頭に、市内各地域の個性を大切にしながら、行政サービスを身近な場所で行い、地域に密着したまちづくりを展開する都市内地域分権をめざしてきました。

その拠点施設の第1号となる西部市民サービスセンターが、5月にオープンします。地域のみなさんのニーズに沿ったものとするため、計画当初から、ワークシヨップなどを通じ、地域のみなさんと二人三脚で検討を進めてきました。この度、複合的機能を有する施設が、市民協働の成果として立ち上げられることは、私としても大変誇らしいことですし、地域のみなさんも喜ばれていることと思います。

西部市民サービスセンターには、道路・公園の補修や、地域活性化につながる事業・取り組みを支援する



西部市民サービスセンターの愛称は「ウェスター」。工事も着々と進んでいます(昨年12月)

ための権限と予算を委譲し、地域のみなさんとの連携のもと、地域の実情に沿った事業を実施できるようにしたいと考えています。もちろん予算には限りがあり、すべてを実施するということにはならないのですが、地域のみなさんには、日ごろ感じておられる課題を、センターと連携しながら地域で解決していく提案をしていただくよう期待しています。

こうした地域住民の発意と参加による新たな地域づくり活動が、都市内地域分権の推進、さらには住民自治の充実につながり、今年着工の北部市民サービスセンターなど順次整備される他地域サービスセンターを拠点に、今後、市内全域に広がっていくと考えています。

## 地方分権時代が到来。 地域資源を未来の力に

地方分権時代が到来しようとして  
います。

地方分権とは、国が中心となって  
決めた法律など、全国一律のルール  
に沿って、秋田市や秋田県などの地  
方自治体が仕事をしてきた中央集権  
型の行政を改め、土地利用や福祉、  
保健、教育など、幅広い分野に関す  
る権限や税財源を国から地方へ移し、  
より住民に身近なところで、住民に  
目を向けた、地域の実情に合った行  
政を可能にすることです。

地方分権が実現し、自由度が高ま  
るといことは、各地域の取り組み  
の差や、地域資源の有効活用の度合  
いが、そのまま地域の将来の姿や市  
民生活のレベルに反映されるとい  
うことです。

現在、秋田市は、第11次総合計画  
において、自立的な発展と豊かで安  
全・安心な市民生活の礎となる産業

経済の振興を重点政策とし、工業や  
電子、輸送機、資源リサイクル、医  
療関連業種を中心に、新規企業立地  
や既存企業の設備投資の促進をはか  
るとともに、コンパクトシティ構想  
の理念に基づき、賑わいのある街の  
再生に力を注いでいます。

特に、本市を含め、秋田県には非  
鉄金属精錬業などの資源リサイクル  
関連産業や先進技術が集積しており、  
そのレベルは世界の最先端である  
と思えます。近年、ゴミとして捨てら  
れる家電製品などに含まれる非鉄金  
属が「都市鉱山」とも呼ばれる有用  
な資源として注目されています。秋  
田市としては、今後も企業集積を促  
進するとともに、国への制度創設の  
働きかけなどを通じ、資源リサイク  
ル関連産業を後押ししていくことが  
重要と考えています。

その一方で、地域資源を有効活用し、  
未来の力としていくための取り組みも  
また重要です。幸いにして秋田市は、  
平成17年の合併を経て、豊かな山林や  
農地、良好な環境など、多様な地域資  
源を得ることができました。

## 地方分権：住民に目を向け、地域の 実情にあった行政を可能にすること



賑わいある街をめざして！ 中心市街地活性化  
基本計画がいよいよ本格化します

これらの地域資源を十分に活用し、  
未来への夢を持ちながら「食料自給  
率の向上」や「地球温暖化対策」な  
ど、可能性を秘める分野での取り組  
みを進めていく必要があります。

また、長年課題になっていた広小  
路、大町地区など中心市街地の活性  
化については、昨年、千秋公園など  
貴重な市民資産を活かした中心市街  
地活性化基本計画が国の承認を受け、  
国の重点支援を受けることができる  
ようになりました。これに

より、市、県、地元商業者  
などの協調による日赤・婦  
人会館跡地など中通一丁目  
地区の再開発事業がいよいよ  
よスタートし、3年後には  
装い新たな街に生まれ変わ  
ることになります。

## 日本の食料を支える 一大生産地をめざす

食品偽装をはじめとするさまざま  
な問題発覚により、食の安全性が重  
要視されている中で、世界の人口増  
加や、とうもろこしなど穀物のバイ  
オ燃料への転換、気候変動などによ  
る、国際規模の食料危機が顕在化し  
ています。

私たち日本の食料自給率は、昭和  
40年の73%から、今では40%にまで  
落ち込んでおり、このままでは、近  
い将来、食卓が米と芋と漬け物だけ  
になりかねない状況です。

国も10年後の食料自給率50%をめ  
ざし、国民的運動を進めようとして  
いますが、農業を取り巻く環境は、  
高齢化や後継者不足などによる生産  
者の減少、耕作放棄地の増加、安価  
な輸入食材との競争など、非常に厳  
しいものとなっております。

本市でも、今後、地域内自給率を  
高めるために地産地消の推進をはじ  
め、さまざまな取り組みを検討して  
いきますが、将来に向けて、耕作放  
棄地となつている農地の有効活用や、  
安全・安心の視点からも地域の消費  
者が生産者を支える仕組みづくりな  
どにも取り組んでいく必要があると  
思います。

戦後の工業化社会の中で、退潮を



写真上：祖父母学級(岩見三内小) 写真右下：絆づくりツアー  
写真左下：きしゃぼっぼ(南部公民館)

## 絆、大切に

続けた農業の復活をめざすことは、簡単なことではありませんが、地方分権時代において、国の補助金だけに頼らない秋田市型の農業が、周辺地域を巻き込みながら、わが国の食料自給を支える一大生産地として発展できる日を夢見て取り組んでいます。

## 世界の環境経済都市へ

地球温暖化が、地球に壊滅的な影響を与えるまで、残された時間は約

40年とも言われています。その影響は、気温の上昇だけでなく、それに起因する異常気象の増加、海面上昇、水不足、食料生産の減少、生態系の崩壊など、生活を取り巻く広範な分野に及ぶとされています。

先進国の中でも取り組みが遅れているとされたわが国も、京都市議定書に定められた温室効果ガスの6割削減をめざし、企業が参加する排出権取引の試行に向けて動き出しました。また、地方自治体にも、排出抑制のための実行計画策定が義務づけられ、今後は全国で独自の取り組みが検討されることになると思います。

もちろん、本市も計画を策定しますが、その中で私は、取り組んだ成果が目に見える、市民のみなさんが参加したくなる温暖化対策の仕組みづくりが重要だと思っています。

世界各国の指導者たちは、地球温暖化防止に資する環境対策を、地球を破壊から救い、世界経済を不況から脱出させる新たな経済の牽引役ともなる成長分野と見えています。

本市でも、市民のみなさんが進んで取り組める地球温暖化対策のモデルのほか、新たな雇用を生み出す可能性などを世界の事例も含めて研究し、将来、「世界の環境経済都市・秋田市」と呼ばれることを思い描きながら前進していきます。

## 見つめてみたいもの、語り合いたいこと

さて、秋田市が今年取り組んでいくテーマについてお話ししてきましたが、どれをとっても地域における人と人のつながりや支えあいなど、「絆」を欠いては、決してうまく進められないものばかりです。

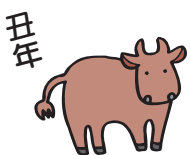
本市の第11次総合計画の基本構想の中に「今、見つめてみたいもの、語りあいたいこと」というタイトルで、絆づくりの考え方を示しています。一節を紹介しますと、

「社会は家族を基礎として成り立っています。一人ひとりをしあわせにする家族が結びついて、地域の絆となり、産業振興における提携、環境活動での協調、地域防災のための連帯、誇れる文化や歴史の継承など、各分野で形を変えて、市民全体のしあわせをはぐくんています」。

今、秋田市では、悩みながらも一生懸命「家族・地域の絆づくり」に取り組んでいます。その「絆づくり」として最も重要なのは、市民のみなさん一人ひとりが、家族をはじめ、自分を支えてくれる「絆」を今一度見つめ直し、その大切さに気がつくことだと私は思います。

家族や親戚、友人が集まるお正月です。このような時こそ個々別々の部屋で過ごすのではなく、皆が居間に集まり談笑することも意味のあることではないでしょうか。燃料費の節約を通じたエコライフという高尚な理念にもつながります。

みかんの皮をむきながらもよし、おいしい郷土料理を味わい、杯を傾けながらもよし、身近な人とともに「絆」についてじっくりと考えてみませんか。





土手長町中丁(現在の中通)にあった市庁舎

**1889** 明治22年  
秋田市誕生。当時の人口は約3万人。



藤倉水源地の工事風景

**1907** 明治40年  
東北で初めて水道の通水開始。



日本有数の大油田に

**1914** 大正3年  
黒川油田(金足黒川)で大噴油。石油事業が本格化。

# 百二十年、ひと昔…

今年、秋田市120歳。  
いろいろなことがありました。



爆破による通水

**1938** 昭和13年  
22年の歳月をかけ、雄物川放水路の工事が完成。

**1951**  
昭和26年

広報あきたの創刊は1951(昭和26)年。市制120年の歴史のうち、半分の約60年間、市民のみなさんにさまざまな情報をお伝えしてきました。  
これまでに広報あきたの紙面を飾った写真や記事で、秋田市の歩みを振り返ってみましょう。



昭和26年7月15日号  
(広報あきた第1号)



攻撃目標となった日石秋田製油所

**1945** 昭和20年  
終戦前夜の8月14日午後10時30分ころ、土崎空襲。多くの尊い命が犠牲に。

# 1964

昭和39年

## 待望の市庁舎完成

総工費7億円、約1年の工期で現在の市庁舎が完成しました。10月26日に行った落成式典では、竿燈50本、ママさんコーラス、中学校・高校の鼓隊・ブラスバンドが、大勢の市民とともに新しい門出を祝いました。



昭和39年10月20日号



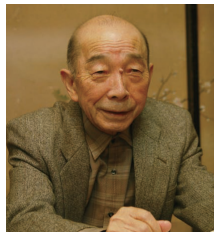
土手長町上丁(現在の千秋矢留町)にあった市庁舎(写真)から移転しました

# 1980

昭和55年

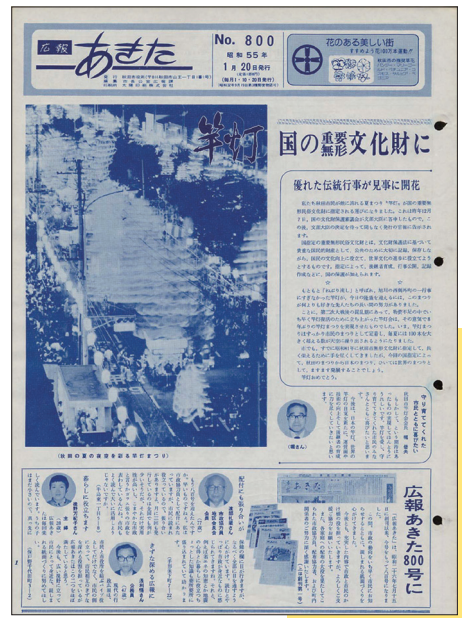
## 竿燈が重要無形民俗文化財に

昭和55年1月28日、竿燈まつりが国の重要無形民俗文化財に指定されました。江戸時代に町人の祭りとして誕生した竿燈が、時代とともに東北を代表する祭りとなり、この年、国の貴重な財産として認められました。



秋田市竿燈会名誉会長 堀田正治さん(山王)

若いときは自分が竿燈を楽しむことに夢中でしたが、文化財に指定されてからは、このすばらしい祭りを次の世代に伝えていかなければと強く思いました。竿燈を演じる人と見てくれる人が、今以上に楽しさを共有できる祭りになってほしいです。



昭和55年1月20日号

# 1983

昭和58年

## 日本海中部地震で甚大な被害

昭和58年5月26日、能代沖を震源とする地震が発生しました。秋田市では震度5を記録。3人のかたが亡くなり、建物などにも大きな被害がありました。決して風化させてはならない悲しい出来事でした。



昭和58年6月10日号



倒壊した塀で押しつぶされた自動車



大町では道路が陥没しました

# 1989

平成元年

## 昭和天皇崩御 時代は平成に

年明け早々の1月7日午前6時33分、昭和天皇が崩御されました。昭和天皇は皇太子時代を含めて4回、秋田市をご訪問されています。「広報あきた」ではその時の写真と共に思い出を振り返って、ご冥福を祈りました。



平成元年1月10日号

新しい元号「平成」は、崩御当日の午後、当時内閣官房長官だった小淵恵三・元総理が発表したんだニヤ。



# 1991

平成3年

## スパイクから スタッドレスに



●当時、広報で何度も取り上げました。

法律でスパイクタイヤが禁止されてから初めての冬を前に、スタッドレスタイヤでの上手な運転法を紹介しました。その前年(平成2年)の秋田市のスタッドレスタイヤ装着率は約25%でしたから、市民のほとんどがスタッドレスタイヤ初体験。この記事は、みなさんの役に立てたでしょうか？



平成3年11月20日号

# 2001

平成13年

## ワールドゲームズ 秋田大会

世界が競うスポーツの祭典、ワールドゲームズ秋田大会が開催され、80を超える国と地域から、4千人以上の人たちが秋田を訪れました。ボランティアやホームステイなどで、外国の人たちをもてなし、交流を深めました。



平成13年8月24日号



ボランティアをした清水千夏さん(新屋)

ローラーホッケーの各国役員を接待する係でした。外国の選手や

役員とたくさん話すことができたおかげで、自分がいかに国外のことを知らないか実感できました。イギリス選手団と一緒に撮った写真は今でも大切にしています。





平成17年1月11日発行の合併記念号から、河辺・雄和のみなさんにも、この「広報あきた」をお届けしています。



平成17年1月11日号

# 2005

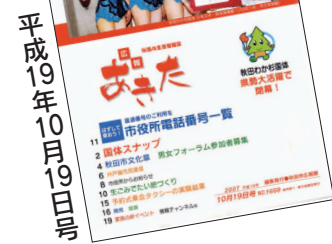
平成17年

## 河辺・雄和・秋田 市町合併

平成17年1月11日、河辺町・雄和町との合併で、新しい秋田市が誕生しました。河辺・雄和の雄大な自然、人も資源も行事も増えて、楽しさも3倍に！新しい秋田市が飛躍の一步を踏み出しました。



平成19年  
11月16日号  
特集



平成19年  
10月19日号

とまりました。練習はつらく厳しい時もありましたが、チームのみんなと心を一つにして、本番では完璧な演技で優勝することができました。とてもうれしかったです。



新体操で優勝した  
後藤美実さん(桜力丘)

地元での国体ということで、応援してくれるみなさんの期待に応えたい

# 2007

平成19年

## まごころの わか杉国体

まだ記憶に新しい秋田わか杉国体。天皇杯・皇后杯を獲得し、大成を取ることができました。選手たちの全力のプレー、ボランティアや市民のみなさんの温かいおもてなし。感動と笑顔あふれる11日間でした。



今年もよろしくお願いたします

# 謹賀新年

副市長 副市長 副市長  
副市長 副市長 副市長  
副市長 副市長 副市長

- 飯高 佐野 飯山 加賀 佐藤 伊藤 倉田 佐藤 宇佐美 加賀 大飯 佐野  
 橋坂 川木 地原 田原 江木 田辺 場原 田林 沢股 田屋 原田 藤谷 藤寺 井井 塚谷 原原 川藤 見藤 藤田 藤美 谷山 塚竹  
 智光 昭晃 達政 晃孝 喜忠 喜美 良雄 金二 弘夫 清一 淳竹 正千 修四 重善 明秀 政博 琢雄 高哲 巧芳 純洋 正幹 敬  
 清徳 一一二 雄志 敏夫 博夫 雄雄 二夫 美夫 子作 義子 讓悦 郎隆 悦誠 修美 博良 文哉 策勝 司治 一浩 子朗 美弥 明久

## 秋田万歳保存会

藩政時代から続く秋田万歳は、年の初めに「太夫」と「才蔵」が、家々を訪問して祝辞を述べる祝言芸能です。

現在は飯島に住む北條貞次郎さん、豪繁さん親子が、その伝統を受け継いでいます。平成15年7月、秋田万歳の講習に参加したかたが、その貴重な文化を保存・継承していきたいと「秋田万歳クラブ(保存会)」を結成。現在30人の「太夫」「才蔵」たちが、北條さんから指導を受けています。



秋田万歳保存会の練習は月2回。和気あいあいの中にも、伝統を愛する熱い気持ちを感じられます。



才蔵がつける面